

# わかたけ

福島市立庭坂小学校



発行者 校長 竹之下 道子

## 3/10 全校集会「あの日のこと忘れない」 (東日本大震災・原発事故から6年経過)

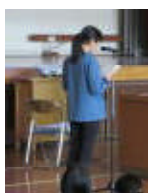
6年前の3月11日、卒園式を間近に控え、買ってもらったランドセルを背負って入学式の練習をしていた現在の6年生も卒業を迎えます。全校集会では、あの日の教訓を風化させることなく、日々の生活に生かし備えることや日々生懸命生きることが復興につながっていること、また多くの皆様から応援していただいたことへの感謝の気持ちを他のところでの災害支援などでお返しできるようにすることなど一人一人が今できることを実践していくことができるようにすることを願ってすすめました。はじめに、校長から本日の「請戸小学校物語」を紙芝居とスクリーンで上演してくださる団塊の世代ノーブレス・オブリュージュの東京と福島のメンバーの8名の皆様に児童に紹介しました。続いて全員で黙祷を捧げ、迫力のあるそれでいて安心して聞くことができる語り口の「請戸小学校物語」を視聴しました。次に「請戸小学校物語」の感想とお礼のことばを児童代表6年2組の渡邊菜那さんから、最後に体験発表を児童代表6年1組の亀岡菜花さんに発表してもらいました。

### 1 「請戸小学校物語」(団塊の世代ノーブレス・オブリュージュのみなさん)



請戸小学校は福島県浪江町にある全校生で100人ぐらいの小さな学校です。あの日、大きな地震の後の津波から、校長先生の「大平山へ」という指示とみんなが道に迷った時に4年生のりゅうたの教えてくれた入り口のお陰で全員が助かったという話です。災害の時どこに避難するかを決めておくことの大切さを学びました。

### 2 「お礼と感想発表」6年2組 渡部 菜那 さん



今日は、私たちのためにすてきな紙芝居をありがとうございました。あの時、私は年長でした。もうすぐ卒園、そして入学という時期でした。そんな時、人とのつながりというものを初めてよく考えました。特に、家族がそばにいてくれれば、ゆっくりでも苦しいことを乗り越えられる。そうやって、震災から6年もみんな生きてきました。私は震災は、悪いことだけではなかったと思いました。震災は人を強く成長させてくれたと思って、これからあの経験を力にかえて生きていきたいと思えます。りゅうたも請戸のみんなも苦しさを乗り越えていると思えます。今日、私たちに希望や勇気を伝えてくださった皆様ありがとうございました。

### 3 体験発表 6年1組 亀岡 菜花 さん



平成23年3月11日に起きた大きな地震の夜は、午前中にはあった家族の笑顔が1度も見られませんでした。今から6年前の私は、幼稚園の卒園式をとて楽しみにしていました。買ってもらった大きなランドセルを毎日のように背負い入学式の練習をしていました。数日後、テレビがついて他の県や市が津波による被害を受けていることを知りました。たくさんの命が奪われたことをテレビで見た時は、怖くて眠れませんでした。私は今、「家族全員が無事で幸せだな」と思っています。放射線の関係で家族がバラバラになってしまった年もあったけど、今は家族5人、一つ屋根の下で生活出来ているからです。放射線の関係で一時避難した時に、1冊の本に出会いました。「人はときに強くときに弱いもの、だから弱い自分を責めなくていい。ありのままの自分を楽しみながら、パズルのように助け合い、つながっていけば、いつかきっと笑える日がくる。」この言葉が1番心に残りました。二度と経験したくない、この震災を経験した人にだけ出来ることが必ずあると思います。多くの地域がここまで復興してこられたのは、たくさんの方の協力があってからです。本の言葉のように、他の県が大変な時は助け合い、日本中の笑顔が増えるように、自分たちの出来ることを一人一人、探していくことが大切だと思います。

